

## 特別講演 2

### 「迫り来る感染症の脅威

#### —感染症危機管理の重要性とそのポイント—

東北大学大学院医学系研究科 総合感染症学

感染制御・検査診断学 教授

賀来 満夫 先生

公衆衛生の普及や優れた抗微生物薬の登場などにより一見制圧できたかに見えた感染症は再び私たちの前に大きな脅威として蘇ってきた。世界的にもMRSAや多剤耐性緑膿菌・多剤耐性アシネトバクターなどの薬剤耐性菌による院内感染事例の多発や、2011年に発生し世界的なアウトブレイクへと発展したパンデミックインフルエンザ、さらにエボラウイルス病、中東呼吸器症候群（MERS）などさまざまな新興・再興感染症が次々と出現し、我々はまさに今、危機的状況に直面しているといえる。

このような“感染症の脅威”に対応していくためには、臨床現場での感染症対策を徹底すると共に、患者や一般市民、メディア、行政などを含めた、“ネットワーク”を構築し、対応していくことが重要である。

ここでは、“感染症の脅威”についての最新情報をお話しするとともに、“感染症危機管理のポイント”

- 1) 感染症に対する意識改革
- 2) トータルマネジメントの実践
- 3) ネットワーク構築

について、概説する。